

満ちる体



この物欲という奴は、
夏の間だけ続く淫欲よりも、
深く有害な根を下ろすものです。

「マクベス」シェイクスピア

最初は どうして
そう なつた のか
今では 思い 出せ ない

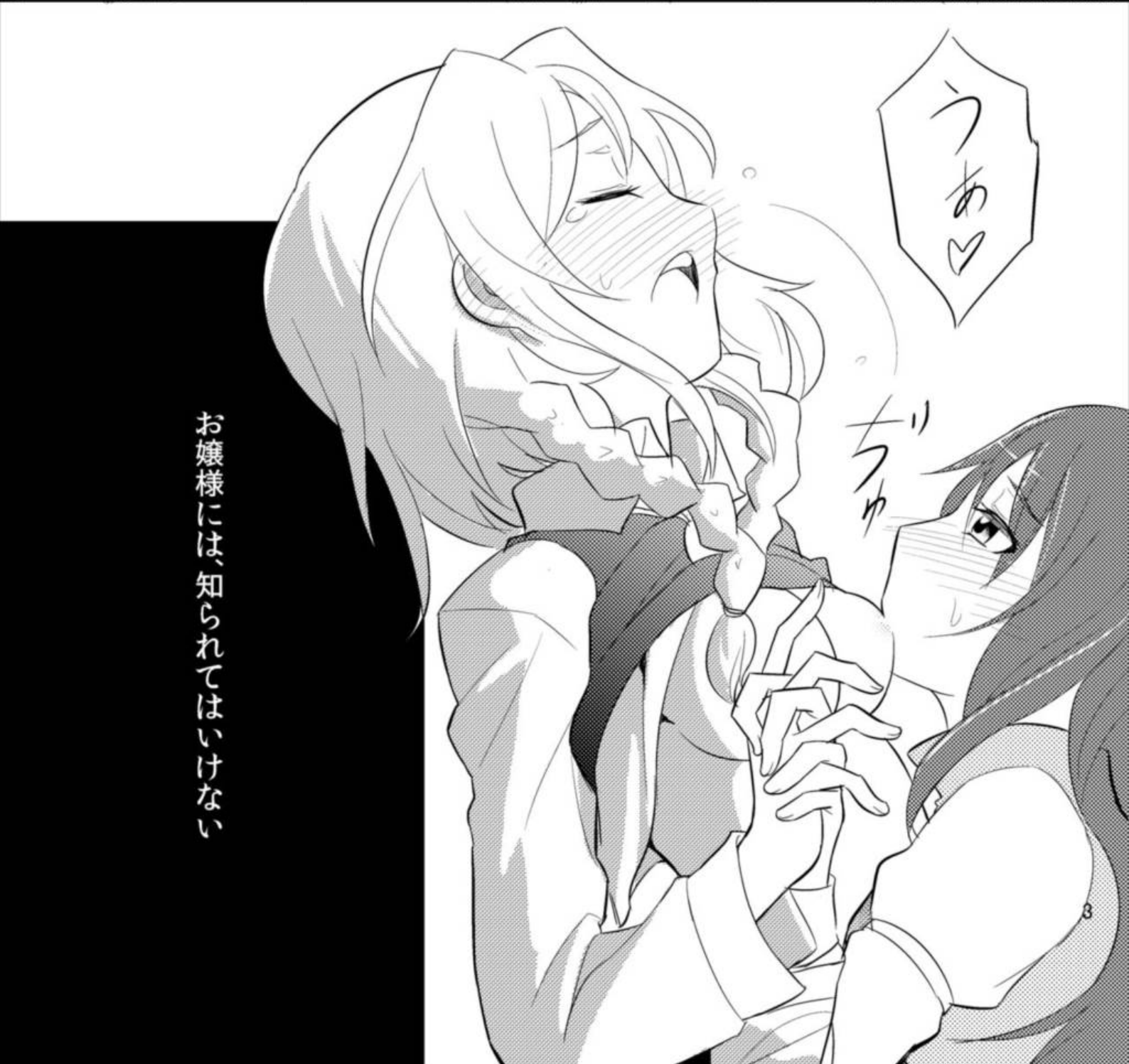
いつ から か
私 の 方 から 美 鈴 の 下 へ
赴 く よう に な っ た

め...り...



美鈴...

もっと強く...して



うっ...♡

ちゅ
ちゅ

お嬢様には、知られてはいけない

咲夜
今夜は私の寝室に
来なさい



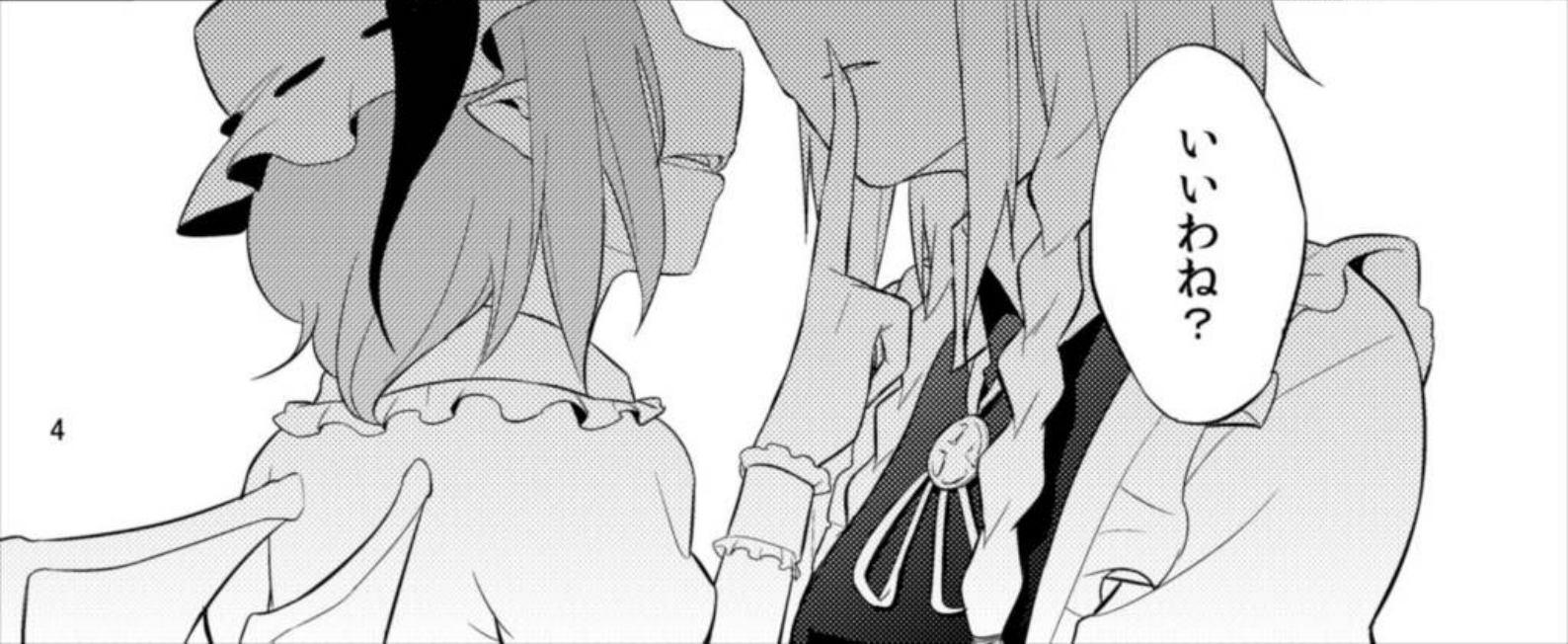
お嬢様
お言葉ですが
夜の巡回が…

そんなのは
他の小間使いに
させればいいじゃない

あなたには
もつと名譽なことを
させてあげるわ

しかしお嬢様—

咲夜



いいわね？



…はい
お嬢様



舐めなさい、咲夜



知られてはいけない





私は

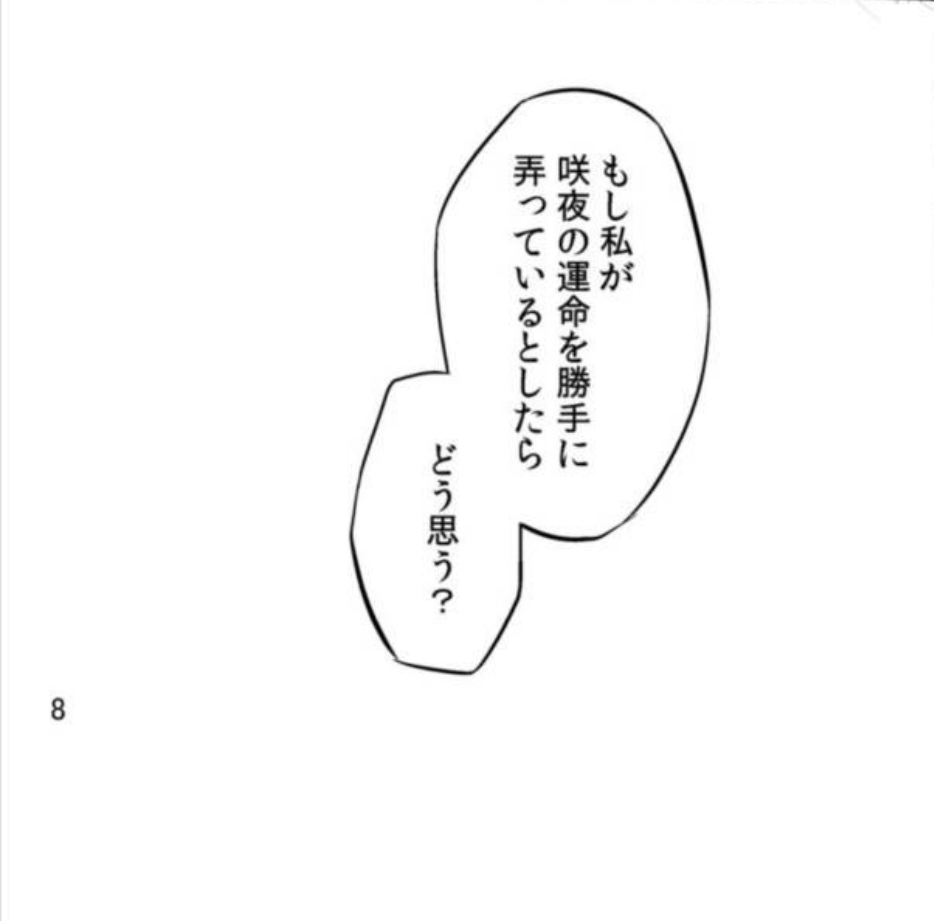
満たされて
いるのだろうか



ねえ咲夜



はい
なんでしよう
お嬢様



もし私が
咲夜の運命を勝手に
弄っているとしたら

どう思う??

…
どうも思いませんよ



それが

お嬢様の意思で
あるなら—



もういいわ

部屋に帰って
ちょうだい



どうしてそんなことを
聞くのですか—？

レミリアお嬢様は
満たされているのでは
ないのですか—？



どうしてそんな顔をなさるのですか—？



私はどうすればいいのですか—？



満ちるってどんな感じなのですか？



熱を感じる――



私を中から
溶かしていくみたいで

美鈴の舌と指が



何も考えられなくなる

溶けて混ざって



美鈴

私のこと好き？



カワイイ寝顔...

なんて
そんなこと聞ける
はずないんだけど...

すぴ〜

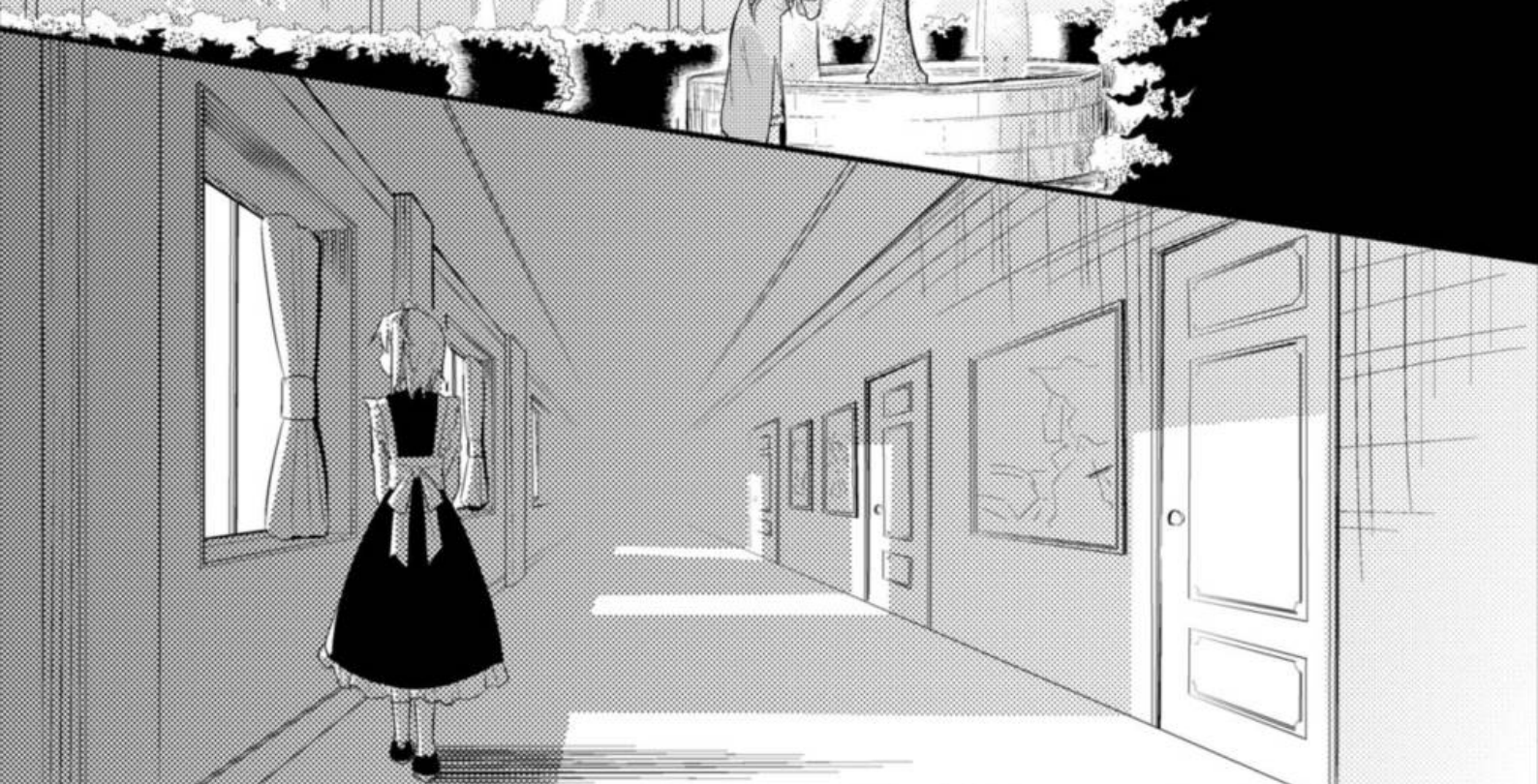


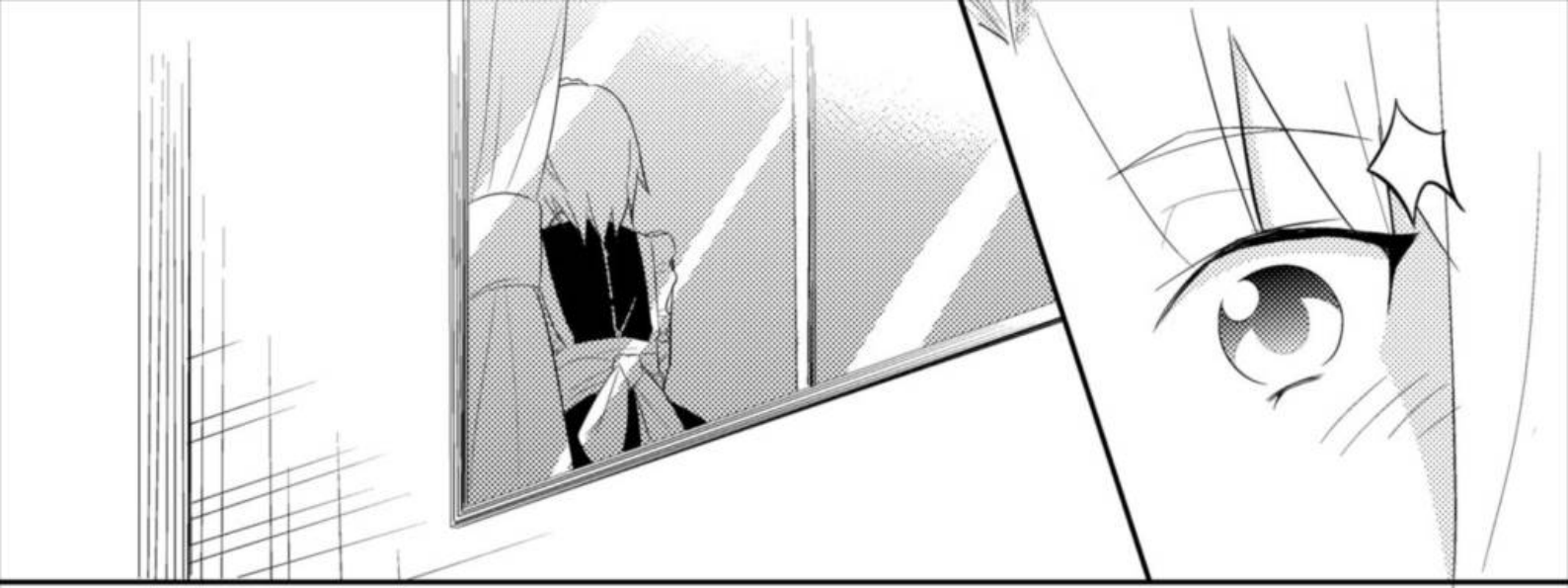
言えるはずも
ないのだけれど...

お嬢様は
きつと許さない

今ー
私どんな顔してる…？







…お嬢様



…おはようございます
レミリアお嬢様



…
そういえば



前から言おうと
思っていたの
だけれど

あなたっていつも
美鈴の匂いがするのね

何故なの
かしら

ねえ
咲夜？

お嬢様には、知られてはいけない。

愛されることは幸福ではない。
愛することこそ幸福だ。

ヘルマンIIヘッセ



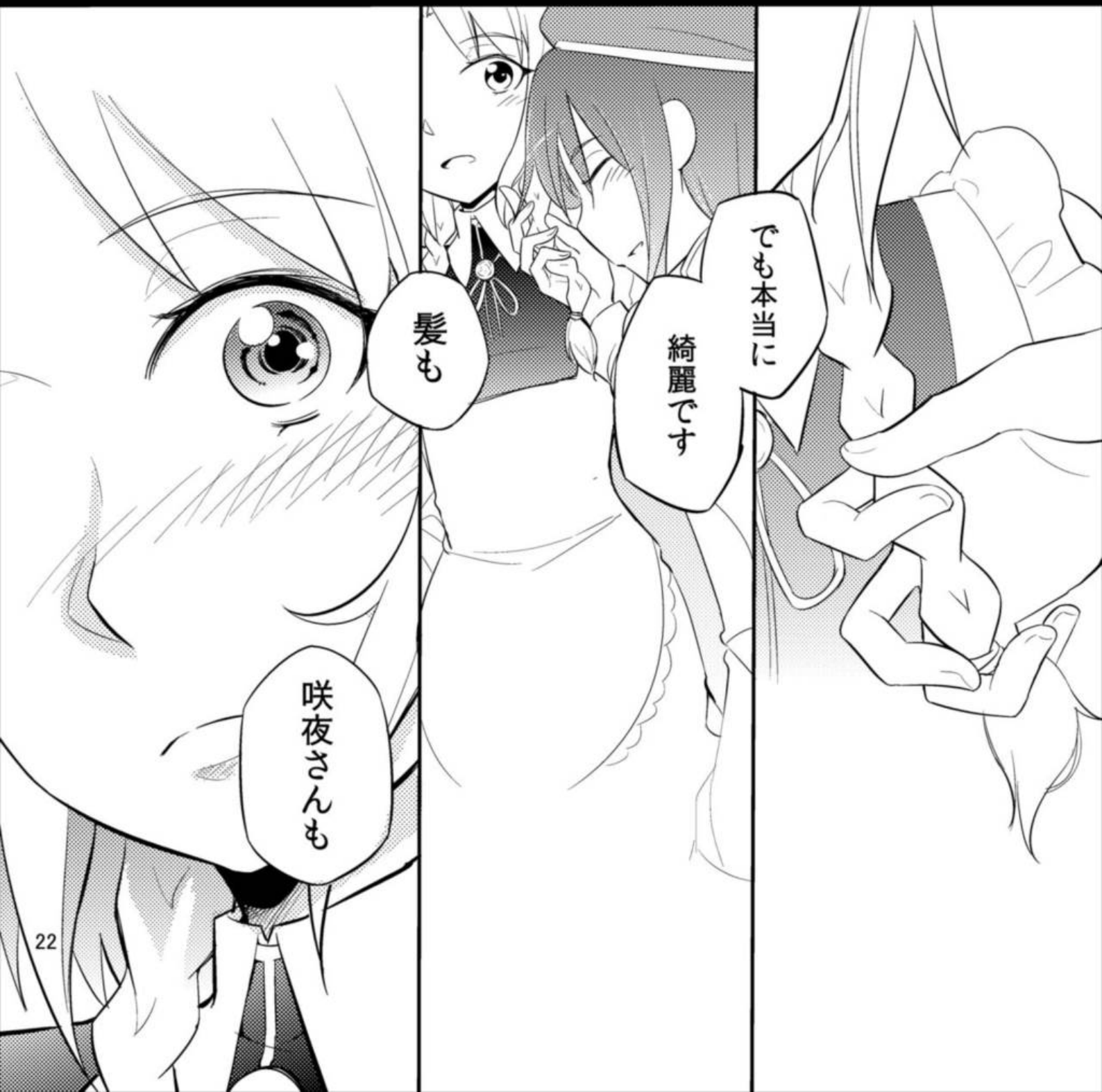


重要なのは
質です!

私のは三日
洗ってないから
ボツサボサですよ!

お風呂くらい
入りなさい
よ!!!

…まず
髪の色からして
違うじゃない



髪も

綺麗です

でも本当に

咲夜さんも



それって



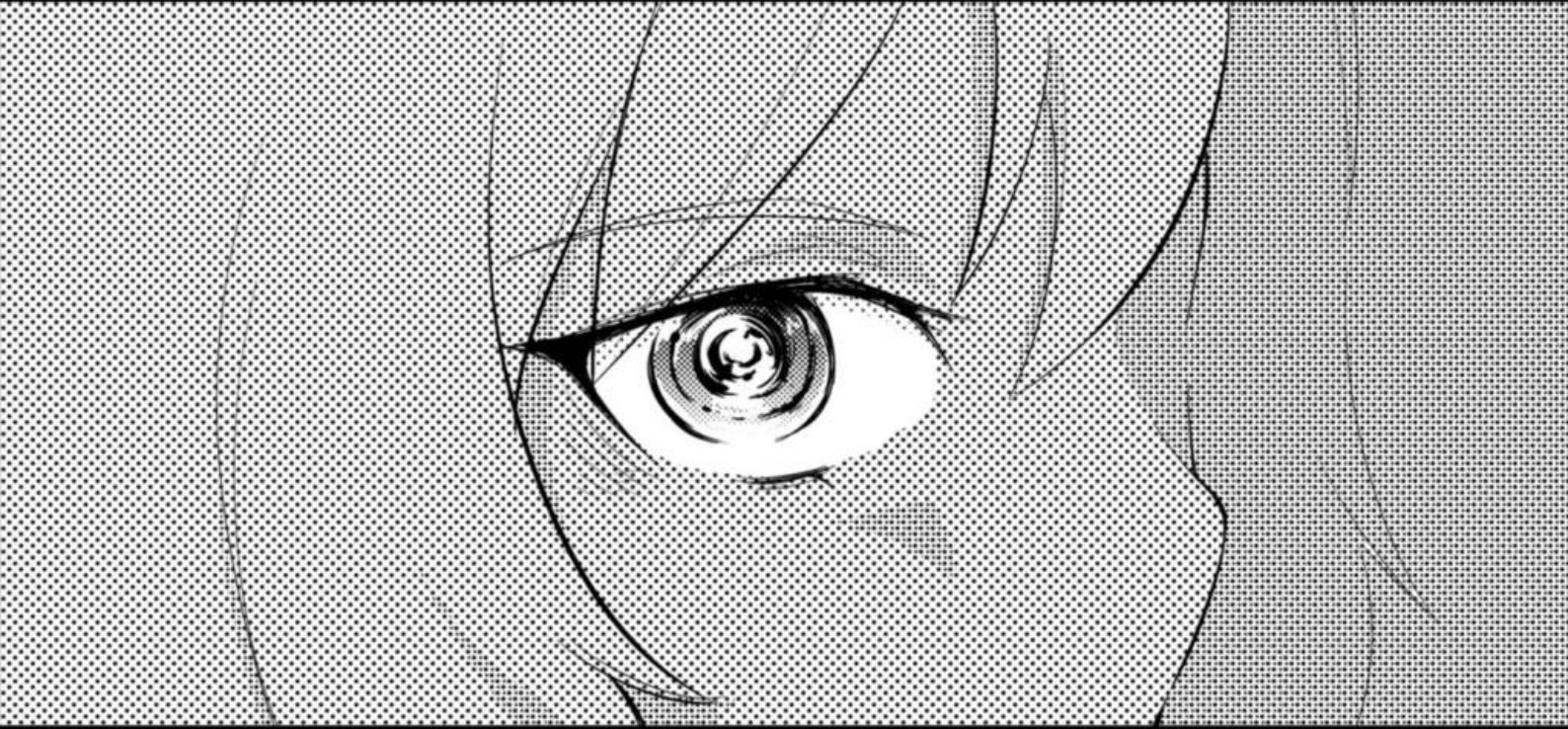
行かなきゃー

私お嬢様に
呼ばれてるんだった!

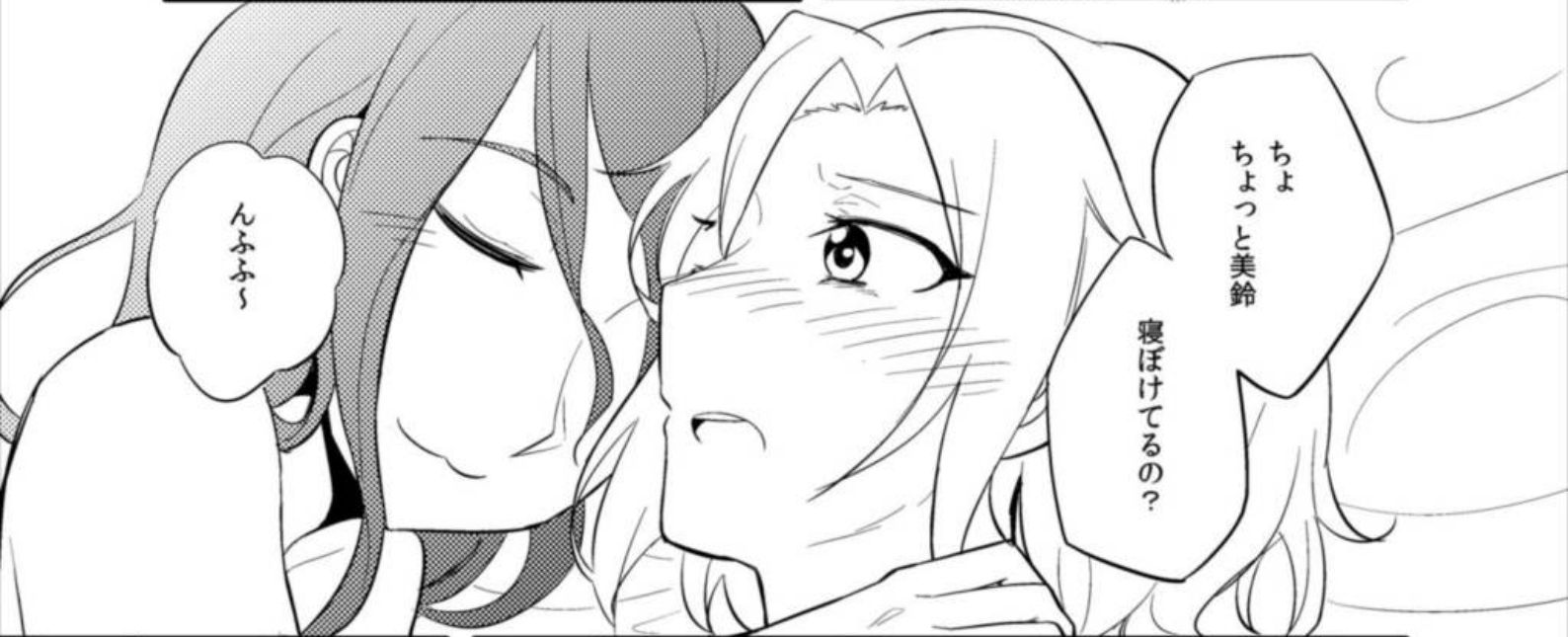
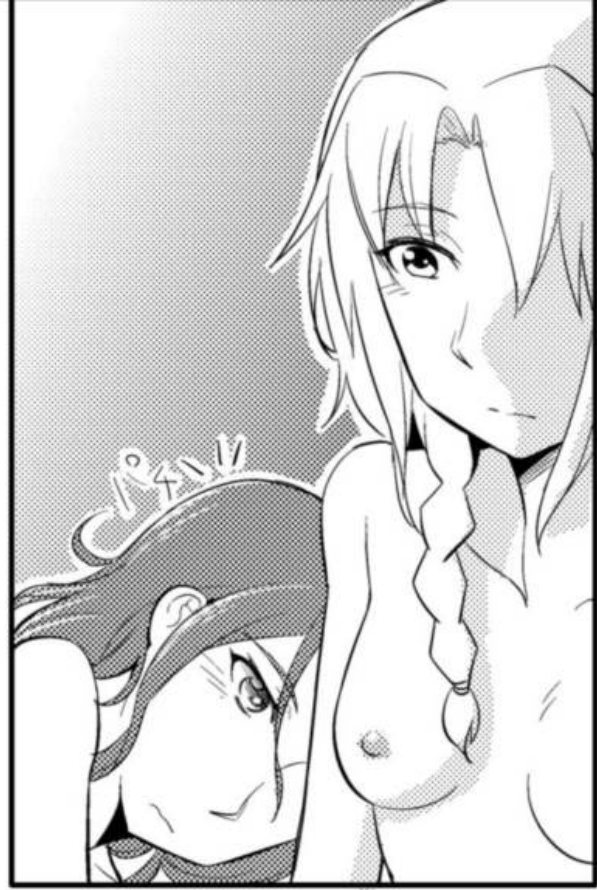
わ、



それって
好きってことで
いいのよね?



お嬢様...?



ちよ
ちよつと美鈴

寝ぼけてるの？



うなされてましたよ
ずっとうんうん唸って

咲夜さん

悪い夢でも
見えました？

あなたに口説かれた
時のことを夢見てたの

へ？

覚えてない？

…えーと…

いいの
覚えてなくて

私だけの大事な
思い出だから


そんな顔しないで
美鈴

その私の心も体も
今はあなたのものよ


あっ

…咲夜さん

美鈴…
また…



…ダメですか？



動かないで
美鈴

私がしてあげる

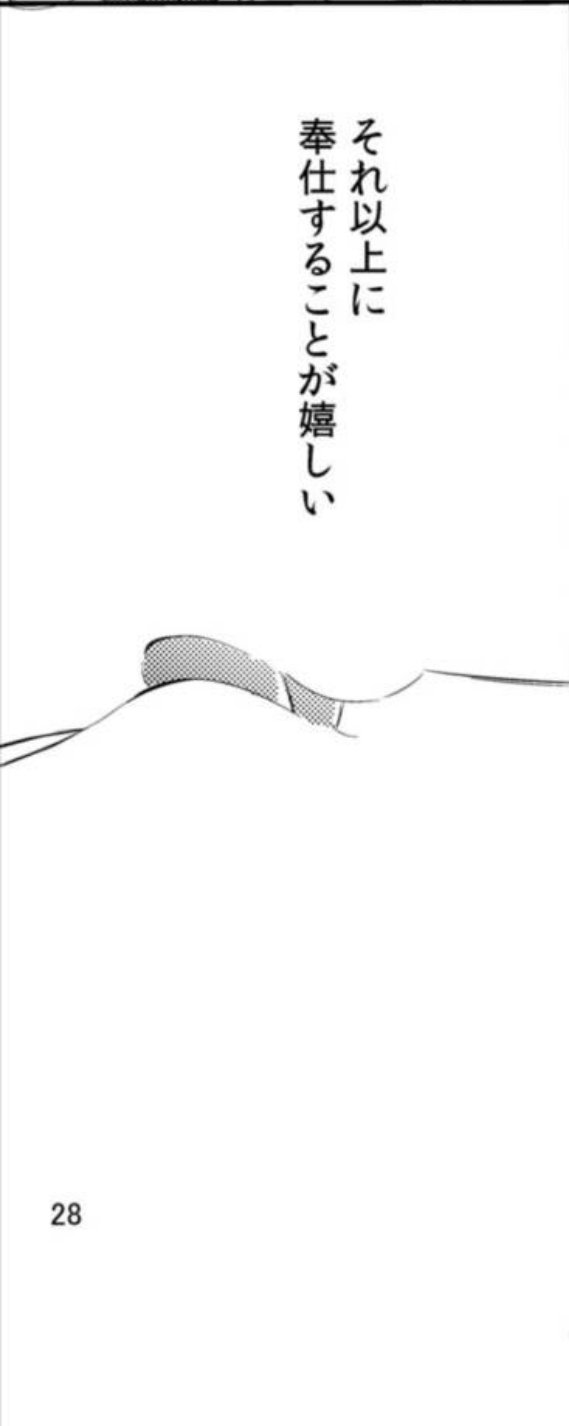
え、でもー



してあげたいの



美鈴の困った顔が愛しい



それ以上に
奉仕することが嬉しい



聴こえるのは
体液が跳ねる音と
美鈴のか細い声

それと

シーツの衣擦れの音だけ





咲夜
夜に私の部屋に
来なさい



お嬢様
申し訳ありません

夜半は書庫で
ノーレッジ様と
改装の下見を

ダメよ

パチエには
私から話をするわ

これはお願い
じゃないわ
命令よ





はい
お嬢様



何の匂いかわかる？

匂うのよ

私のじゃない匂いよ

苛立ってるの
わかる？

わかんないわよね
あなたは人間なもの

私が一人で
勝手に
苛立ってるだけ

来なさい
咲夜



横になりなさい咲夜

お嬢様—!!

黙りなさい

ご勘弁を

黙りなさい



不浄です
やめてくださ

座れ!!!!





見て咲夜

ああ
咲夜



私のは
こんなに溢れてる

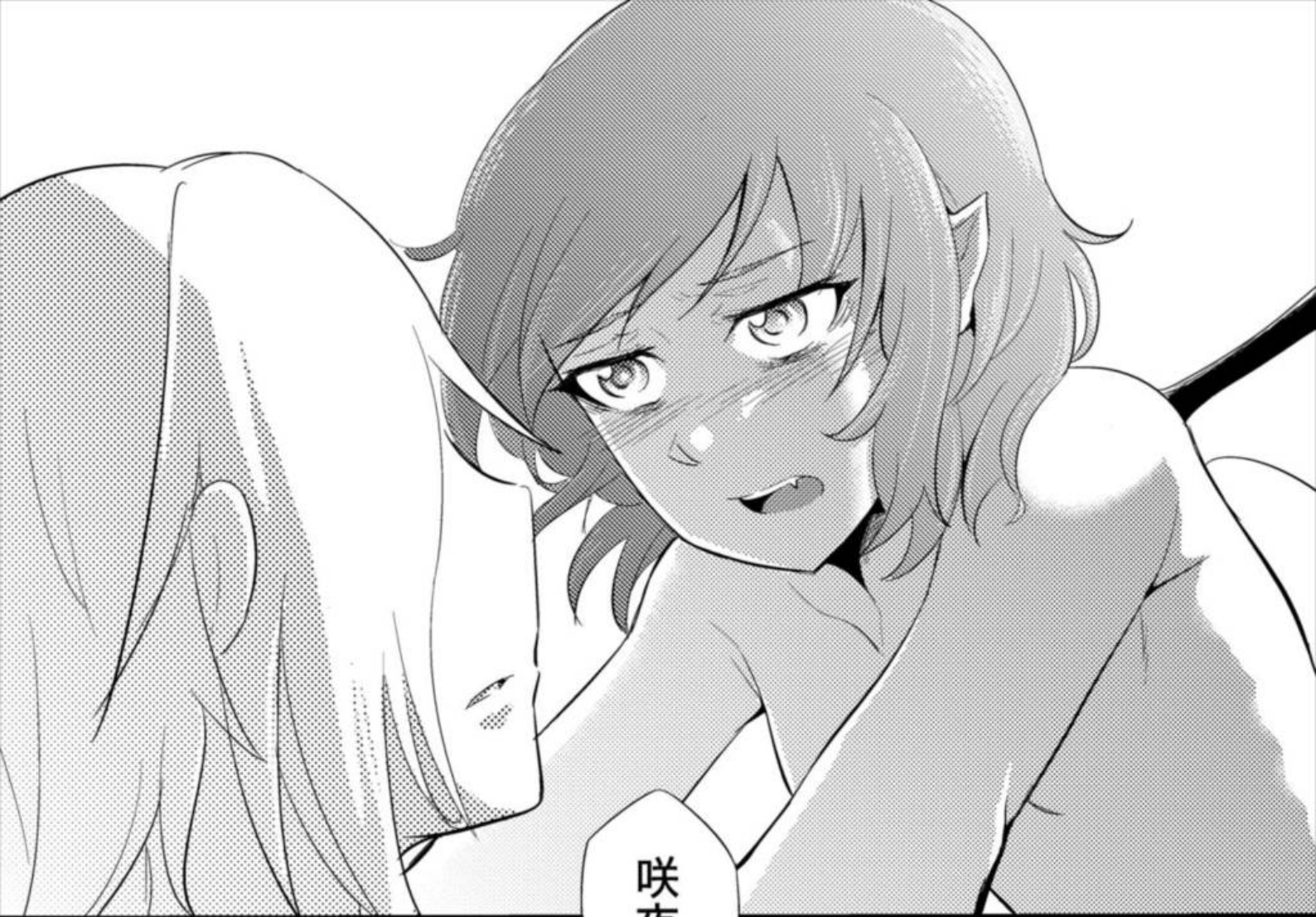
私の咲夜…



ねえ
嬉しいでしょう？

その体に染み付いた匂いを
私ので上塗りしてあげる

ねえ



咲夜



誰かに似ている

どこかで見た



美鈴なんかには
渡したりしないわ

痛っ!

あなたは
私のものよ
咲夜

痛い?
ごめんなさい
なんて言わないわよ

だって所有物に
礼なんて必要
ないでしょう?





…!!!



レミリアお嬢様

私が愛しているのは
レミリアお嬢様

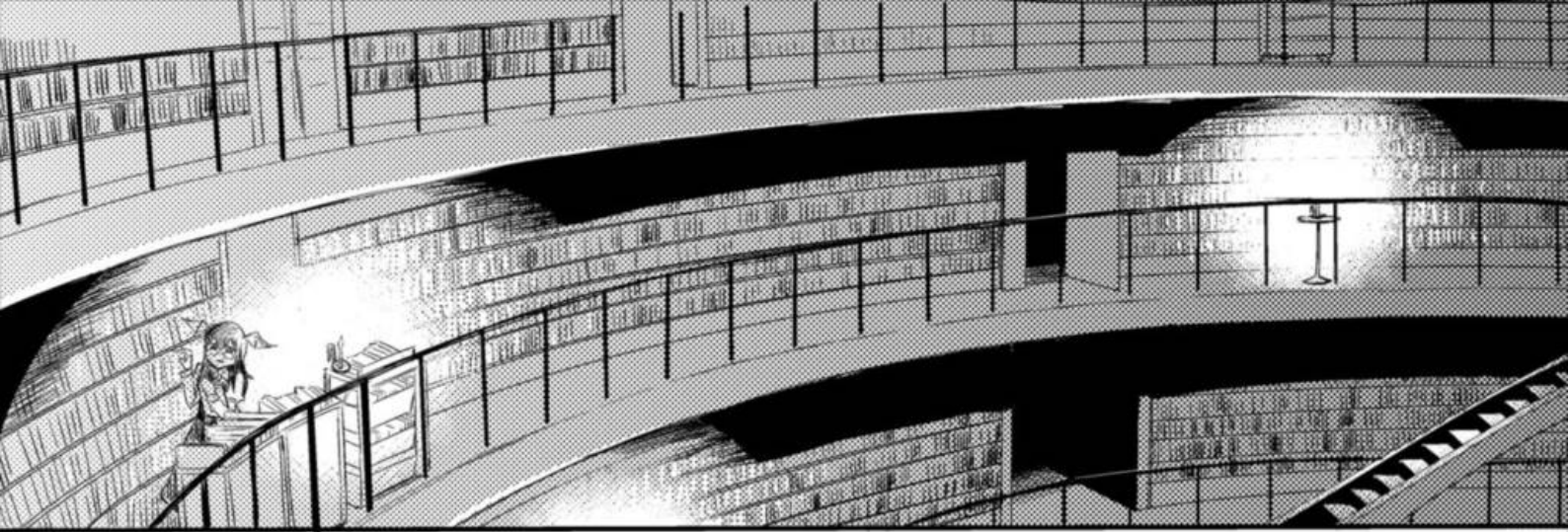
ただ一人だけです



…も

もういい
くだらない!

出て行って…!!



なのにそのあなたが
一緒になって
苦悩してどうするのよ



あなたが選んだ
運命なのでしよう？



文句ある？

あるわよ。

私に八つ当たり
しにくるなんて
ますますもって
どうしようもない
吸血鬼ね



最初は面白いと思って
始めたことなんでしょうね

でもそのうちに
軌道修正できないくらい
十六夜咲夜があちらに
傾いてしまった

なんとかこちらに
戻したいけど
方法がわからない

ってどこかしら？

あなた運命を操る
吸血鬼なんですよ？

どうか
ならないの？

運命は結果なのよ

それまでの
過程なんて

私にだって
わからないわ



今在る感情なんて
どうにかできるわけ
ないじゃない

だから
こんな…

あなた

私の知ってる
吸血鬼じゃないわ

運命を力で捻じ曲げる
怪物だと思っただけど…

乙女ね

それも
とびっきりの
生娘

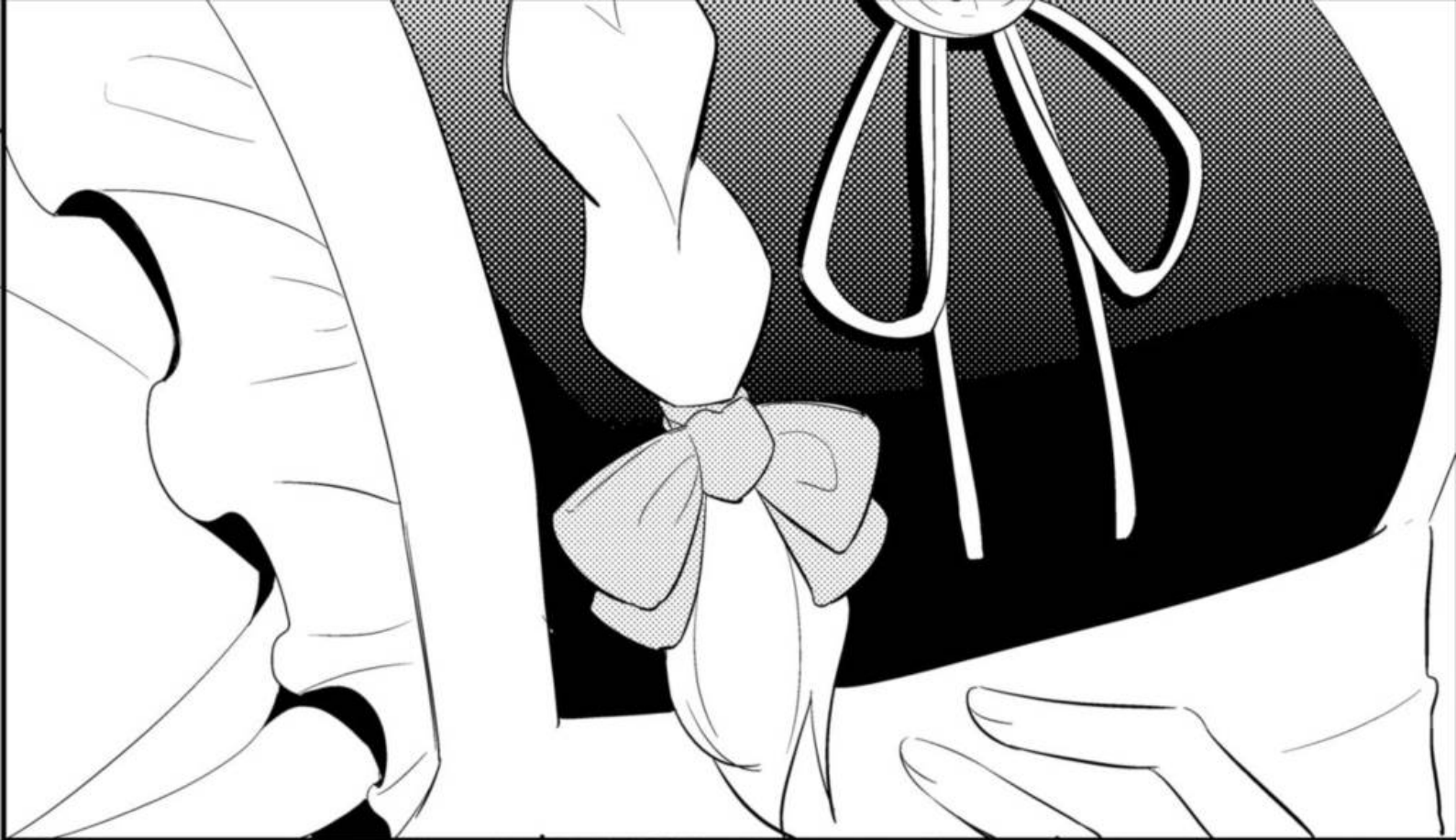


…ねえ…

忘れたわ



あなたの選んだ運命は
どういうものだったの？





咲夜さんて
いつも寂しそう
顔しますよね



…ありがとう



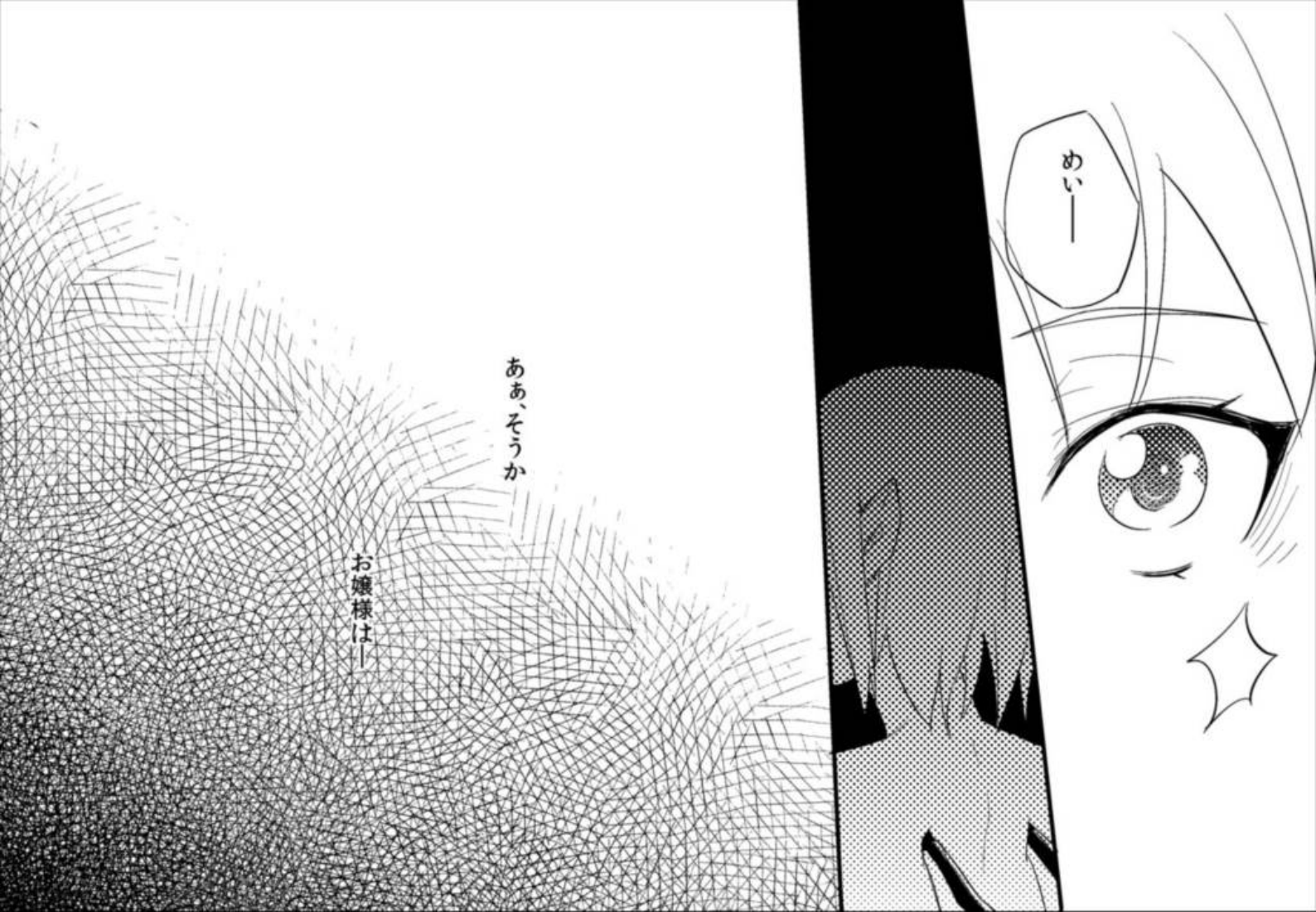
咲夜さんに
最も近くて

最も
遠い人です



私
今の咲夜さんと同じ顔を
する人を知っています





めー

ああ、そうか

お嬢様は



ごめんなさい美鈴

今夜もあなたの
部屋に行けない



同じ顔



咲夜さんのこと



いいんです
待ってます
いつまでも



なに？何の用？
笑いにきたの？

お嬢様

見てたのよ
私

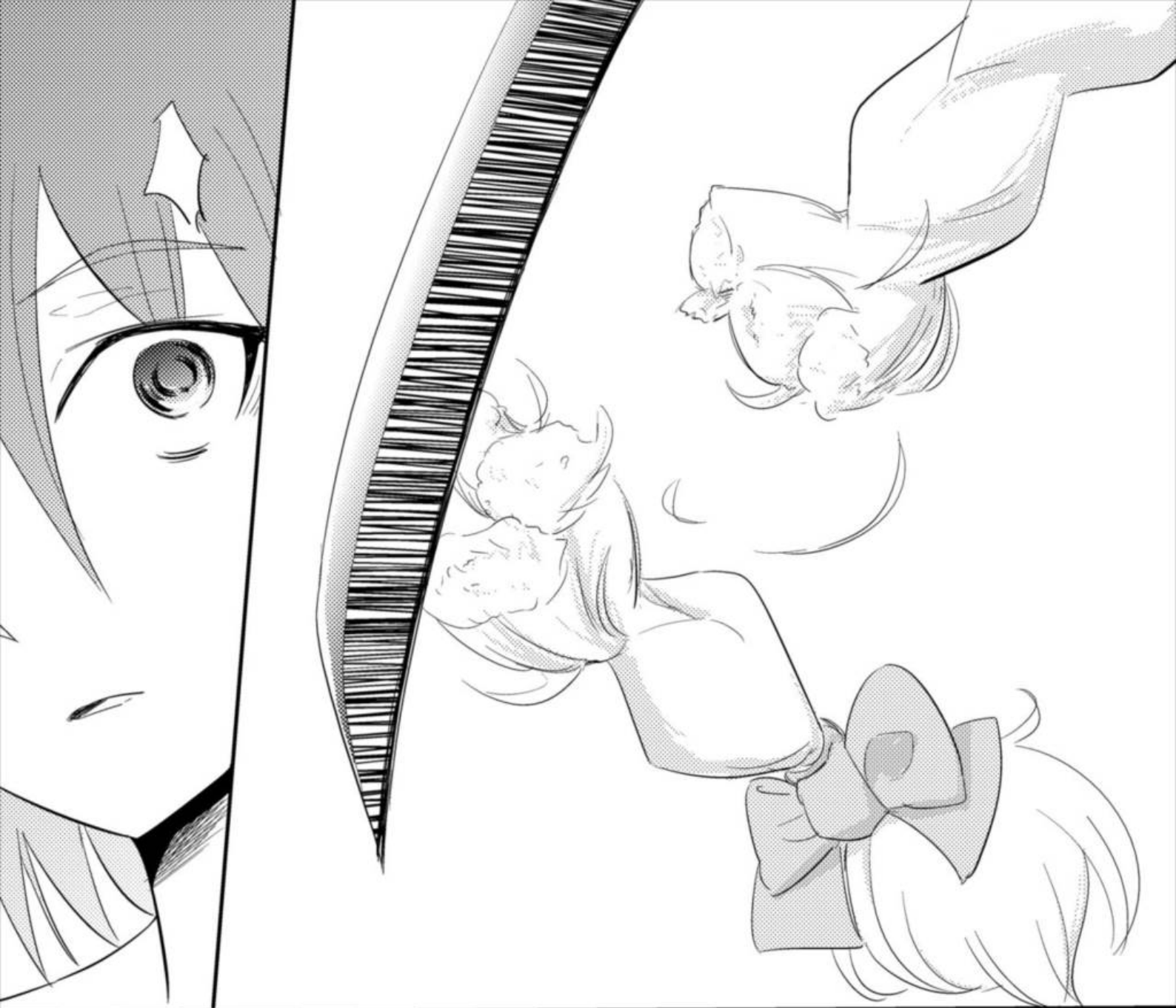
ここから


昼に二人で
逢引きしてたわね

リボン
似合ってるわよ

見せつけに
きたんでしょ

愛の証
だものね






この飾り気の
なくなった髪も

お嬢様の欺瞞が
作った傷


これが証です



やがては消えて
なくなるものですが

この痛みは

私の中に
ずっと残ります



満たされない心を
体で満たそう
としたのは

咲夜

私だけじゃなかった

咲夜はあなたの
従順なメイドです

身も心も

お嬢様

私に夜伽を

忠義を
示させて
ください

体が心を満たすのは
まやかしだろうか

好き

好きなの
咲夜


愛してる

でも、嘘じゃない

私も
愛しています

お嬢様





焼ける体が

震える心が

満ちていく——



レミリア様
狭いですよ

もうちょっと
寄って下さい

何言ってるのよ

これ以上詰めたら
私が日光に当たっちゃ
うじゃない！



だってそうしないと
私が咲夜さんと
イチヤイチャできない
じゃないですかー

あんたは太陽の下で
十分よ

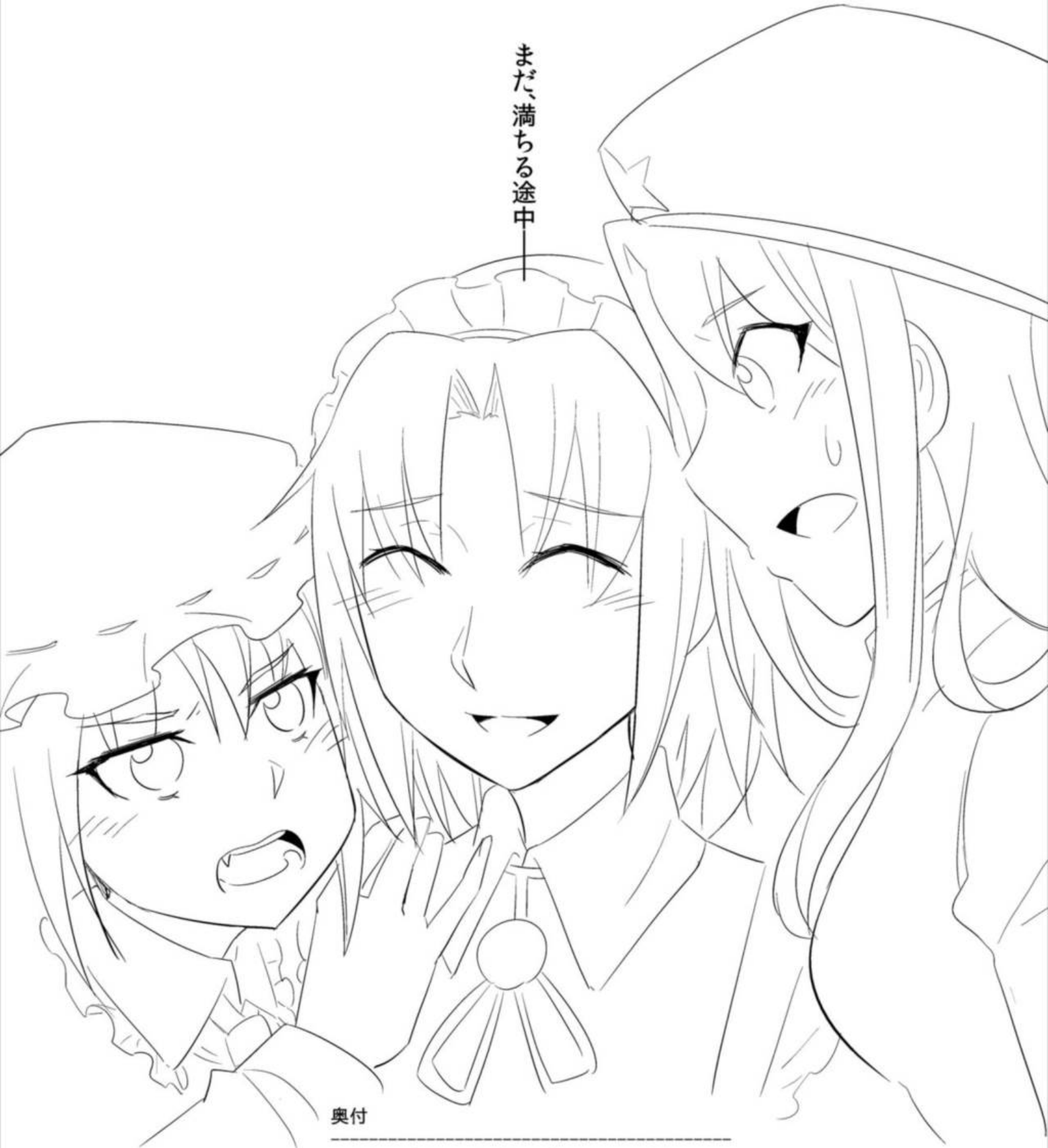
人足のくせに
生意気に
求めてるん
じゃないわよ！



心は飽和する
ことはない



まだ、満ちる途中——



奥付

原 作:上海アリス幻楽団/東方project 様
発 行:ヨエコスキー yoeko925motida@gmail.com
発行日:2013年5月26日 博麗神社例大祭
印 刷:有限会社丸正インキ 様

The image features a dark, moody scene with silhouettes of people. In the foreground, a large silhouette of a person with long hair is seen from behind, looking towards a window. To the right, another person is sitting on the floor, also looking out. In the background, a third person stands near the window, their arms outstretched. The window looks out onto a bright sunset or sunrise over a landscape with trees. The overall color palette is dark with a bright light source visible through the window.

倉橋書院
kurahashi-shoin